



COMPANY'S
CHALLENGE

NO.53



エンドユーザーとともに成長する 水耕栽培で農業に新たな風を

有限会社グリーン・グリーン 代表取締役 上杉 仁氏

すべての人を農業の担い手に

平成22年には約260万人いた農業就業人口は右肩下がりであり続け、平成30年には約175万人まで減少。加えて就農者の平均年齢は66歳と高齢化も進み、農業の担い手不足が深刻化しています。他方で、土地をはじめとした様々な資機材にかかる高いコスト、農作物を育成するためのノウハウなどが就農への高いハードルとなり、新規就農を希望する人のチャレンジを阻んでいます。そこで、一般家庭から事業者まで、すべての人が農作物の作り手となる社会を実現するため、管理が容易な水耕栽培を推進しているのが、福岡市中央区舞鶴の有限会社グリーン・グリーンです。

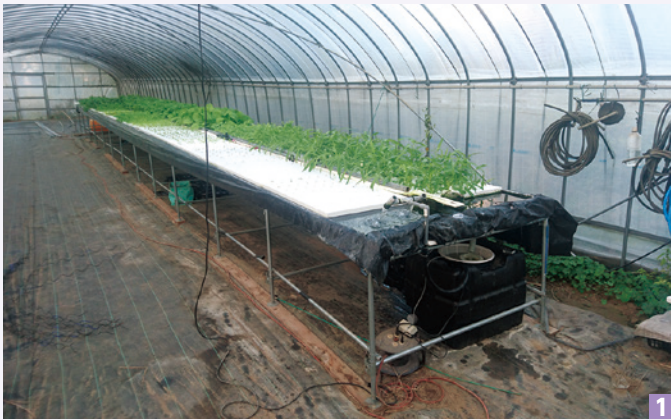
水耕栽培とは土を使わず、主に水を利用して作物を栽培する方法です。一般的な土耕栽培に比べ水やりや除草などの手間がなく手軽に取り組めることが最大の特徴。また室内での栽培が可能であるため、天候等に左右されることなく、安定した農作物の収穫量が期待できると言われています。グリーン・グリーンの代表取締役、上杉仁さんは「水耕栽培であれば農業に必要な土壌管理などのノウハウや、日々の管理などにおける肉体的な労働は必要ありません。そのため子どもからお年寄りまで、簡単に農業に親しむことができます。今後、農業の担い手がさらに減っていく中、一人ひとりが生産者になれば、食料自給率を高めることも可能」と自信をのぞかせます。

グリーン・グリーンが提供しているのは家庭菜園レベルの水耕栽培キットから、事業用の大規模な資機材まで多岐にわたります。また水耕栽培専用の肥料も自社で開発。新規就農に対するコンサルティング事業も展開するなど、水耕栽培の“担い手”を全国で増やしています。

「独立当時、欧米では水耕栽培も盛んでしたが、日本では主流でなく資機材も肥料も発展途上。そのため商品開発においては、ユーザーの意見を取り入れながら改良を重ねてきました。例えば『水耕栽培の野菜がおいしくない』『化学肥料の臭いがする』『コストが高い』など、多くの意見に耳を傾け、きめ細かく対応しています。その分、大手メーカーよりもユーザーに寄

【プロフィール】

福岡県出身。不動産業などを経て独立。農業の担い手不足などに注目し、水耕栽培用の肥料をはじめ、事業・家庭用の水耕栽培資材などを開発。社名のグリーン・グリーンには「全国に緑を増やしたい」という願いが込められている。



1



2



3



4

- 1 『アマテラス』をはじめ水耕栽培は無農薬栽培も可能。安心安全な食の提供という面からも、上杉さんは水耕栽培を勧めている
- 3 大手メーカーともコラボして、手軽に始められる水耕栽培キット『greenteria』を販売。ホームセンターなどで取り扱われている

- 2 グリーン・グリーンが自社開発した家庭用の肥料。『だるそうな時のサプリ』などユーザーが使いやすくなる商品開発を展開
- 4 手軽に始められるのが水耕栽培の最大のメリット。土を扱わないため衣服なども汚れず、ビルの屋上で取り組む企業もある

り添った商品開発ができました」と上杉さんは振り返ります。ユーザーの意見に応える姿勢が続々とファンを呼び込む好循環を生み、商品に対するより多くの“アドバイス”を集約。そしてまた要望に応じていく。その徹底したユーザー本位のスタンスにこそ、上杉さんの『大手に負けない』という気概が表れています。

農業の現場で障がい者の雇用を支援する

グリーン・グリーンでは、水耕栽培の初期費用を抑えた水耕栽培用DIYシステム組立ベースキット『アマテラス』を新たにリリースしました。全長約14m、1台あたりの収量はリーフレタスで1ヵ月500~1,500株。1ヵ月あたり20万円以上の売り上げも期待できると言います。この『アマテラス』によって、新規就農支援に加え、障がい者の雇用創出にも寄与できると上杉さんは意気込みます。

「『アマテラス』は資機材の採寸や切断、溶接などが不要になった、組み立て式の水耕栽培キットです。プロの施

工が必要ないのでインシャルコストを軽減。農作物を手軽に育てられることもあって、コストやノウハウで新規就農を諦めていた人でも夢を叶えられる商品です。さらに作業面が地面より高く立ったまま作業ができるので、楽な姿勢が保てます。また土を使わず衣服が汚れません。そのため車イスでも作業が可能で、障がい者の方の軽作業に向いています。『アマテラス』によって、就労先で困っている障がい者と、人手が足りない農業、両方の課題解決が可能だと思っています。農作物が育っていく過程には“癒し”の効果も期待されるので、楽しみながら農業に取り組むことができるのではないのでしょうか。

実際に関東や関西などの障がい者施設で『アマテラス』が採用されるなど、福祉業界でもグリーン・グリーンの水耕栽培が注目を集めています。

水耕栽培で新たなコミュニティを創出

「大小に関わらず、多くの人が野菜を育てている姿を見たい。食の安心安全に対する意識が高まる中、最も新鮮

で、最も信頼できる“自分”が作った野菜を食べられる水耕栽培は、無限の可能性を秘めています。例えば公民館代わり、コンビニ代わりに水耕栽培の施設があってもいい。皆で育てて、皆でシェアする。そういうコミュニティの場としての農業も広がってほしい。SNSだけではなく、リアルな場でも農業を通じてコミュニケーションがとれるはず」と上杉さん。

これまでに、中国や韓国をはじめ、東南アジアなど海外からも問い合わせが届いているというグリーン・グリーン。

「日本、そして海外のたくさんの人が農業に関わることができるよう、これからも資機材・ノウハウを開発していきたい」。



有限会社グリーン・グリーン

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴1-4-1
ハイザックビル803
TEL 092-737-7713
<https://green2.jp/>